

卒業式特集



3年生の卒業と同時に新入生を迎えるこの季節、たいへん慌ただしい季節ですね。

この時期は、自然界でも多くの世代交代がなされます。小学校の教科書にも紹介される河井 醉茗の詩に歌われる「ゆずり葉」もそんな一つでしょう。

「新しい葉が出来ると 入り代わってふるい葉が落ちてしまう……」

日々は中断なく流れていきます。けれど、時には不連続な「切れ目」があったほうがいいのかも知れません。

「切れ目」の春は昨日とは違う自分、新しい自分を見つけるいいチャンス。

今までできなかったことにチャレンジする機会にしたいものです。

学校長 井戸 裕久

音楽科

3月2日～8日 オーストリア修学旅行

210 橋本 愛理 (半田市立乙川中学校出身)

私たちは、飛行機に約12時間乗って、オーストリア修学旅行に出かけました。初めての海外、初めての飛行機ということもあり、私はとても楽しみにしていました。

私たちが出かけたのは、オーストリアのウィーンとザルツブルクです。ザルツブルクは、ミラベル宮殿、モーツァルトの生家などに出かけました。

ウィーンへ向かう途中に、マウトハウゼン強制収容所に出かけました。ここは、第二次世界大戦の時に、ドイツ軍がユダヤ人やナチスに反論する人などを収容していた施設です。強制収容所は、大きな石の塙で囲まれ、入り口までに亡くなった方々の慰霊碑が並んでいました。強制収容所に入ると、長屋のような建物がいくつもみえます。実際にユダヤ人を収容していた部屋や、ガス室などを見ました。その奥には、ガスで殺された人々の焼却炉もありました。ここで亡くなった方の写真や名前が並べられていますが、まだ名前が分からない方もいるようです。

ウィーンでは、ベートーヴェンの散歩道や遺書の家、シェーンブルン宮殿、ウィーン少年合唱団附属小学校に出かけました。ウィーン少年合唱団附属小学校は4年間通い、その後希望する子どもたちだけが合唱団に入団します。私たちはその4年生の授業を見学しました。4年生といってもまだまだ幼くて、とてもかわいらしかったです。一緒に歌う時には、どこから歌っているのか分からない私に子どもたちが教えてくれました。夜にはフォルクスオーパーという歌劇場でオペラを鑑賞しました。鑑賞したオペラは、現代風にアレンジされていたので、学校で事前に観たものとはまったく違った印象でした。

ウィーンもザルツブルクも、落ち着いた街並みです。こうした街で過ごすのならば、作曲など音楽活動もしやすいのだろうと思いました。いつかまた出かけることがあれば、もっとゆっくと建物や資料館を見学し、これからの音楽活動に役立てたいです。



Schedule (行事予定)

| 4月 | | 5月 | |
|----|------------------------|----|-----------------------|
| 5 | 金 在校生登校日 | 1 | 水 月曜時間割 |
| 6 | 土 入学式 | 11 | 土 PTA総会、進路ガイダンス、学級懇談会 |
| 8 | 月 始業式、身体測定 | 15 | 水 午前授業 |
| 12 | 金 クラブ総会、EP英語説明会 | 16 | 木 1学期中間考査(～21日まで) |
| 15 | 月 EP美術説明会 | 17 | 金 ウエサカ祭 |
| 16 | 火 1年生フレッシュマン合宿(～18日まで) | 22 | 水 歯科検診 |
| 18 | 木 2年生遠足、3年生上山研修 | 31 | 金 体育大会 |
| 19 | 金 振替休日 | 6月 | |
| 24 | 水 看護医療系ガイダンス | 1 | 土 PTA常任委員会、地域懇代表者会議 |
| 25 | 木 内科検診 | 4 | 火 体育大会予備日 |
| 26 | 金 見真の日 | 25 | 火 午前授業 |
| | | 26 | 水 1学期期末考査(～7月2日まで) |



Club & Award News

柔道部

- 第35回内閣総理大臣杯争奪 全国高等学校柔道選手権大会出場
女子57kg級 平野 未紗(知多市立東部中学校出身)
女子70kg級 森 彩華(知多市立東部中学校出身)

サッカー部

- 平成24年度愛知県高等学校新人体育大会サッカー競技 準優勝

女子蹴球部

- 2012年度愛知県高等学校女子サッカーリーグ2部 優秀選手賞 橋本 遥(八幡中学校出身)

ラグビー部

- 平成24年度愛知県高等学校新人体育大会 ラグビーフットボール競技名南・知多支部予選会 準優勝

フィギュアスケート

- 平成24年度知事賞争奪 愛知県フィギュアスケート選手権大会 第3位 河原 もも(高杉中学校出身)

卒業式

2012年度卒業式を挙行了しました。卒業式第2部では、恒例の卒業生による合唱構成詩が披露されました。今年度のテーマは「逢」。ここには、生徒たちが残してきた足跡が刻まれていました。



フレスコマン合宿

4月。いきなりの勉強合宿。基礎検を何度も受けたフレスコマン合宿。あんなに長い時間勉強したのは初めてかもしれない。入学早々なぜこんなにも勉強しなくてはいけないのだろう。でも分らないところを教えあひ、みんなと一緒に過ごすなかで、仲間の輪が広がった。

商業科

「商業魂」。それは、みんなが「丸」となって、どんなこともやりきっていくこと。クラス数が少ないから、クラス替えに楽しみはないけれど、その分4月からみんなが繋がっている。みんなで笑い合えた毎日がとても楽しかった。

検定が近くなり、毎日夜遅くまで残って勉強した。一緒に残って勉強している友達の前を乗り越えて、自分も合格したいと強く思えるようになった。先生や友達にたくさん教えてもらって、それが検定合格につながった。仲間と一緒だからこそ頑張れたし乗り越えられた。検定が多いのは分かっていたけれど、定期テストと時期が重なるとは思わなかった。「検定終わった〜!」って喜ぶ暇もなく「テストやべえ!」という状況になった。でも意地でも合格したかった。だから必死に勉強した。高校生活で一番勉強したのが簿記検定。他にもたくさん検定を取得して、愛知県知事にも表彰してもらえた。就職にも役立ち、頑張ったよかったです。

2012年度 合唱構成詩「逢」

入学式

435人の足音。この学校でやっつけていくことを決意したみんなの足音。門に立つて校舎の窓を見たら、窓全体に二人一人の名前が書いてあった。これからここで生活するのだと実感した。ほとんどが初めて会う子ばかり。緊張して何も喋れなかった私に、隣の席に座っていた子が話しかけてくれた。ここから同期での3年間が始まった。

文化祭

朝早く準備をしたり、学校終わりに夜遅くまで準備したり…。文化祭は行事の中でもとても思い出に残る時間だった。私は舞台監督補佐になった。でもなかなか練習に顔を出すことができなくて、何のための補佐なのだろうと不甲斐ない気持ちになった。でもみんなは私を責めたりしなかった。「来られる時だけでいいよ」の言葉に救われた。その時、支え合っつてすばらしいなど実感した。私も誰かを支えられる人になりたい。

「ここでキレたらだめだ。」必死で自分に言い聞かせながら、リハサルをやった。周りから褒められ、アカデミー候補だと言われた。しかし結果は取れなかった。悔しかった。この悔しい気持ちも今ではない思い出。

今年こそはアカデミー賞を取る!クラスの仲間と担任の先生、そして私の気持ちがあつたりあつた。でも実際はぶつかったり、ぜんぜん残ってくれなかったり、正直毎日苦しかった。舞台監督としての責任。それだけが私の背中を押していた。舞台前夜のリハサル。一緒に頑張ってきた友達に「明日は絶対に成功させよう!」と励まされた。今までの苦さが一気に吹き飛んだ。結果はアカデミー賞!!担任の先生に同期アカデミー賞をプレゼントできた。私にとってかけがえない宝物。この宝物は一生大事にする。

パフォーマンスのポスターを書いた私。たくさんの人に来てもらえるように「生懸命考えた。文化祭当日、後輩は「あのポスターに惹かれました。絶対行きます。」と言ってくれた。

部活動

すごく弱かったのに3年間続けた部活。最後の大会が終わった後「何で続けられたのだろう?」と考えた。辛い時も逃げたくる時もあったけれど、そこには個性的なメンバーや「先輩」って呼んでくれる後輩、そして仲間がいたからここまで続けられたのだ。お世話になった顧問の先生からの最後の言葉。辛い日も楽しい日もたくさん時間を共に過ごした先生の言葉に、これまでの記憶が一気にめぐってきた。

大好きな音楽をするためにここに来た。でも実技試験のたびに良くない点数と順位がついて音楽をやめたくなった。辛かった。でも悔しきのぶん、自分は音楽が好きだということを痛感した。「今年も絶対やばい」とみんな言っていた3年生のオーケストラ。例年になく進みが遅く、出来も悪くて、いろいろ採めた。違う楽器が気持ちをついに音楽を奏でることがとて難しい。みんな危機感を持っていた。必死で練習を繰り返した。演奏会後、先生から「今までの同期オーケで一番よかったよ」と言ってもらえた。最高の演奏会になった。

体育大会

1年前の体育大会。応援合戦が終わって先輩が泣いているのを見て、来年は自分たちがもっと良いものを作ってみせることに誓った。

最初は、クラスメイトも全然残ってくれなくて、このまま本番を迎えられるのか不安で仕方なかった。遠足もゴールデンウィークも中間試験も終わって、あつという間に当日が近づいて来た。群団長を引き受けた友達。辛そうにしている姿を放っておけなくて、みんなが残ってくれるように声をかけてまわった。役に立ってるかは分からなかったけれど、「少しでも力になりたい」と思っ、部活が終わってから顔を出すようにした。

みんなで作った応援合戦。優勝の手応えを感じていた。絶対に優勝できると思った。本番直前、後輩に向かって「大きい声出して、盛り上げよう!」と声をかけた。みんな大きい声で返事をしてくれて、もう大丈夫だと確信した。担任の先生が「優勝させてやりたい」と言ってくれたことで、逆に頑張るって優勝して、先生を喜ばせたいと思った。みんなと喜び合えて本当によかった。絶対に優勝できると思っていたけれど、優勝できなくて、みんな涙を流した。あの時の先輩の姿が重かった。

クラスでもおとなしい彼。応援の練習もまじめにやっつけてくなくて、正直困っていた。そんな彼の200メートル走で1等のテープを切る姿、名前を呼ぶ放送の声、クラスのみんなが見直した瞬間だった。

を決め5階級制覇。嬉し涙で包まれる中、私は悔し涙だった。「私だけが」っていう気持ちで…。その時、君が肩を支えてくれた。私の本当の涙に気づいてくれたのは、一人だけだったよ。ありがとう。

同期で良かった。藤山先生で良かった。藤山先生だからここまで来た。一番憧れる恩師でありライバルだ。藤山先生、ありがとうございました。

「いっかげん起きなさい!」お母さんの怒鳴り声が頭に響く。眠いまま階段を降りるとおどろいた。目を覚める。今思えば、毎日お弁当を作ってもらえるのが当たり前だと思っていた自分が恥ずかしい。もう、お母さんのお弁当が食べられなくなるのは寂しいけれど、お母さんのお弁当がどんな店より一番おいしい。

私は最初から私立に行きたかった。家計のことを気にしなかった。素直に「ありがとう」と言えなくてごめんね。本当に心配ばかりかけて「お母さんの重荷でしかないな」って思ってた。でもお母さんが一番の宝物はあなただ。たよって言ってくれた時、「お母さんの子どもで幸せだ」って感じた。

僕が今の進路に決めたのは、お父さんの姿だ。志望理由には書かなかったけど、お父さんの姿がカッコイイと思っその道に進むことを決めた。多くを語らないけど、必ず見ていてくれた。大人として、人間としてお父さんを尊敬しています。お父さん、お母さんの子どもでよかった。私の自慢のお父さんとお母さん。大変な事もたくさんあるけどお父さんとお母さんには私がいるからね。いつもありがとう、大好きだよ。私がまだまだたくさん言っごめん。本当に迷惑ばかりかけたけど、これからは恩返しさせて下さい。

家族

「いっかげん起きなさい!」お母さんの怒鳴り声が頭に響く。眠いまま階段を降りるとおどろいた。目を覚める。今思えば、毎日お弁当を作ってもらえるのが当たり前だと思っていた自分が恥ずかしい。もう、お母さんのお弁当が食べられなくなるのは寂しいけれど、お母さんのお弁当がどんな店より一番おいしい。

私は最初から私立に行きたかった。家計のことを気にしなかった。素直に「ありがとう」と言えなくてごめんね。本当に心配ばかりかけて「お母さんの重荷でしかないな」って思ってた。でもお母さんが一番の宝物はあなただ。たよって言ってくれた時、「お母さんの子どもで幸せだ」って感じた。

僕が今の進路に決めたのは、お父さんの姿だ。志望理由には書かなかったけど、お父さんの姿がカッコイイと思っその道に進むことを決めた。多くを語らないけど、必ず見ていてくれた。大人として、人間としてお父さんを尊敬しています。お父さん、お母さんの子どもでよかった。私の自慢のお父さんとお母さん。大変な事もたくさんあるけどお父さんとお母さんには私がいるからね。いつもありがとう、大好きだよ。私がまだまだたくさん言っごめん。本当に迷惑ばかりかけたけど、これからは恩返しさせて下さい。

自分の足下を見つめる機会は、これまで何度

修学旅行

沖繩の青い空、青い海。そして半袖を着て自転車に乗っていた担任の先生。「あの人、担任の先生?」聞かれて少し言葉に詰まりました。人の温かさに触れる旅だった。シーサーづくり体験や美ら海水族館の感動。ガイドさんのやさしい訛り。最後の夜の演芸会では友達や先生の新たな面も見えた。修学旅行がくれた思い出は計り知れない。民泊では小学生の男の子がいたけど、恥ずかしがっていて仲良くなることができないでいた。でも、走り回って追いかけてくれているうちに普通に話せるようになっていた。

おじが押し忘れていた炊飯器のスイッチ。炊けていないご飯を見て、みんな苦笑い。おばあのとっておきの場所は、崖の上だった。足下の海岸では、友達の手を振っていた。伊江島の子になった気分。手を振り返した。本当に幸せな時間をくれた民泊先みんな。また、絶対に会いに行く。

実際に分かった沖繩戦の悲惨さ。ガマの中は暗闇だった。こんな暗闇の中で隠れた日々を想像するだけで私は辛かった。目には何も映らず、光も入ってこない。酸素もなくなつたような錯覚を感じ、息苦しかった。こんな闇の中で人々が生活していたことにただただ悲しみを感じた。沖繩戦のこと、日本が抱える問題を学ぶことができて良かったことに感謝したい。

音楽科に入っ一番楽しみにしていたことは修学旅行。私たちは音楽の都ウィーンとザルツブルクへ出かけた。芸術的な街並みは見た事のない世界だった。街中に音楽があふれ、偉大な音楽家たちを身近に感じる事ができた。

本場のオペラを観て、面白さを深く知ることができた。ウィーン少年合唱団とも一緒に授業を受け、一緒に歌ったことは貴重な体験だった。

ナチス強制収容所では大きなショックを受けた。事前学習で行く前から怖かった。入り口からよほど心細くなった。展示されている写真を見た時、心が痛くなった。命の大切さを感じ、自分たちの暮らしていることに幸せかという事を改めて思い知った。

もあった。進路ガイダンスに担任との面談。夏の三者面談で、いつも聞かれたことが「自分はどうしたいのか?」ってこと。高校入試で挫折を味わい、進路に関して弱気になっていた。だから、私は家族の意見や思いを優先していた。でも、自分が本当にやりたい事を見つけて、緊張しながらそれを話した。お父さんもお母さんも、「お前が本当にやりたいことだったら、迷わず頑張れ」と励ましてくれた。必死に努力して臨んだ受験で、勝ち取った合格。いっかげん僕を支えてくれたこと、言葉にできないくらい感謝しています。

周りの人の進路が決まってくる中、一般受験の私は心細かった。私だけ取り残されたみたいで不安だった。でも、クラスの友達は私を見ていてくれて、応援してくれた。最後まで頑張った合格できたのは、みんなの支えがあったから。

同期で学ぶうちに、進学したいという気持ちになった。でも、両親は就職を望んでた。ただでさえ学費の高い私立へ通わせてもらっている。何度もぶつかったり泣いたりして結局、私は就職という道に決めた。いろんな先生が面接の練習に付き合ってくれた。目指していた会社から採用通知がきて、今までの努力が報われたことを実感した。

自分が決めた道だから逃げない。自信があるわけじゃないけれど、頑張るしかない。しっかりと足下を見て、地面を踏みしめていきたい。

先生への思い出
先生への激しいツッコミ。止まらない笑い声。どんな話があつて先生を雑談に導く。みんな受ける授業が大好き。

悩みや苦しみを一緒に考えてくれた先生。「お前の人生だろ!」と逃げずに向き合ってくれた先生。先生の言葉や表情が今は嬉しくも浮かんできてる。ぶつかるところもあったし、面倒くさいと思ったこともあったけれど、今では自分たちのために言ってくれていたと分かることができた。先生が担任でよかった。

一各クラス担任へ手紙の朗読

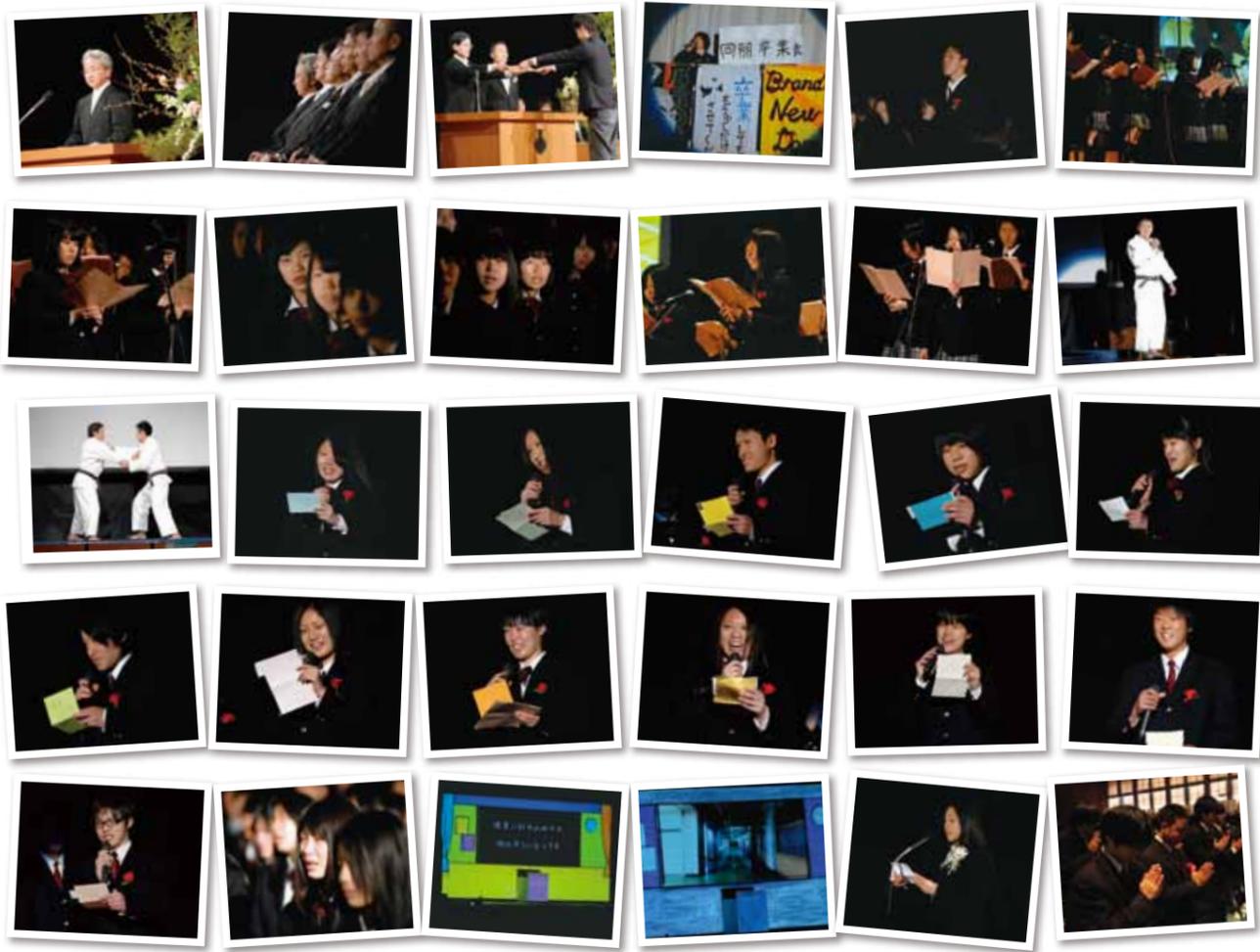
一各クラス担任へ手紙の朗読

一各クラス担任へ手紙の朗読

一各クラス担任へ手紙の朗読

一各クラス担任へ手紙の朗読

GRADUATION DAY



友達

勉強嫌だし、朝早いのもつらいけど、それでも学校の事が好きになれたのは友達がいりから。休憩時間のおなかを痛くなるくらい笑って。授業中にはしゃいで怒られてしまったことも、テスト勉強しながら結局しゃべっちゃったこともいい思い出。この友達は生大事にした。言わなくても伝わることもあると思う。何度か語り合えたわけじゃなかったけど、同じ時間を大切にできたあいつとは、これからもずっと友達だ。楽しい時は一緒に笑って、悲しい時は一緒に泣いて、お互いの気持ちを共有してきて。みんながいるから今の私がいる。私にとって友達とは本当に大切な存在だ。

卒業生合唱 [Best Friends]

卒業式第一部合唱構成詩のテーマは「逢」。いろんなところからやってきた私たちが、いまこの場所で逢っているということ。私たちはいろいろな道を歩んで、同朋高校にきた。そしてこの場所が私たちに繋がりをつくりだしてくれた。部活、勉強、行事、進路；自分の未熟さを感じながら、そのたびにたくさんの人と出会って、学んで、成長することができた。

自分たちが歩んできた足跡はどんな形だったのか。決してきれいなものばかりじゃないかもしれない。家族にも、先生にも、後輩のみんなにも、たくさん苦労や心配をかけてきた。だからこそ気づけたのは、「今ある環境が決して当たり前のものではない」ということ。そして「今の自分は自分一人で作ったものではない」ということ。

自分ができることは、「逃げないで受け止めること、今を必死に生きる」とだと思っ。これまでのすべての経験に感謝を。すべての出逢いに感謝を。

◆ 学校長 式辞 ◆

立春も過ぎ、暦の上ではすでに春となっており。気づけば以前、卒業生が残してくれた河津桜もつぼみを膨らませ、こかしに微かではあれ新たな生命の蠢動が感じられる今日この頃です。この佳き日に、多くのご来賓、保護者の皆様などの臨席の下、同朋高等学校第53回卒業式を盛大に挙行できますことは、この上ない喜びであります。

保護者の皆様、本日は、誠におめでとうございます。皆様のこれまでのご労苦に対し、深く敬意を表しますとともに、本校の教育活動に対しご理解とご協力をいただきましたことに対しまして衷心より感謝申し上げます。

ただいま、卒業証書を手にした卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの門出を心から祝福いたします。

皆さんの脳裏には、いま、この3年間の想い出が次々よみがえっていることと思います。時には悩み、苦しむこともあったでしょう。友との語らいや部活動の中で、あるいは充実した学校生活に深い満足や喜びを感じたこともあったでしょう。そんな皆さんに、今日は人間について、人間の不思議さの二つについてお話をしたいと思っております。

人間について、古くからさまざまな言い方がされてきました。直立歩行をする、あるいは、道具を作る、火を扱う、知恵に優れているなどです。それらの中でも、私が常日「ろ本当に不思議に思っているのは、誰もがいつの間にか言葉を使いこなすようになることです。」

考えてみれば実に不思議なことなんです。生まれる前まで何もなかった、ゼロであった「私」たちが、それがいつしか言葉を身につけ、人とコミュニケーションを取り合うようになるのです。

その不思議な変化を保護者の皆さまはじめ、大人たちは目の当たりにしてきました。君たちも今は実感がわかなくてもきっといつか同じ経験をすることになります。

さて、人はどうやって「なにもない」白紙の状態から大人の前で言葉を操るようになるのでしょうか。「大人のまねをするからだ」とも言えます。しかし、そんな物まねをどれだけ集めても、私た

ちが日ごろ行っている豊かな会話にはなりません。これは外国の話ですが、遙か昔の植民地の時代にはいろいろな地域から連れてこられた奴隷がたくさんいました。その人々には共通の言葉はありません。そこでお互い意志を通じあうのに、ある言語、たとえば英語をベースにし、単語を並べてコミュニケーションを図ったといえます。

またそれは、「ぼくときみがある、がこう、たのしい」助詞や助動詞などがあるかもしれません。それは「ぼくは、きみとあるいてがこうにいくのがたのしい」なのか、「ぼくときみがある、がこう、たのしい」なのか分りません。誤解も多かったでしょう。が、人と人が向き合っていればわかり合えることの方がずっと多かたはずなんです。その時に感じる「わかり合える喜び」こそが、言葉を共通化する原動力だったのではないのでしょうか。

さらにその子どもたちの世代になると、子どもたち自身がそのカタコト言葉をもとに、今までこの世になかった言葉の体系を創りあげて、今までの自由なコミュニケーションでできるようなものになります。大人たちは相変わらずカタコトです。ところが、カタコトで教えられた子どもたちは大人を越え、自由に語り、わかり合える喜びをさらに拡大していく。実はここに人間の本能があると思うのです。

人間は元来群れをなし、社会を作って生きる生き物です。そこで一番必要なのはコミュニケーションをきちんと創りあげることでした。ある学者は言います。「子どもは、言語体系の設計図をもつて誕生し、クモが巣を作るように、母語を本能で獲得する」。つまり、言葉を操るようになるのは人間の本能によるのだと言っています。

今、私たちは実に危なっかしい時代に生きています。厳しい経済格差の中、責任ばかりが個人に押しつけられています。十分な仕事がないのに、就職できないのは努力しないお前が悪いなどと責められます。以前では想像もつかなかったような凶悪な犯罪や危険が新聞を賑わしたりもしています。目を国際関係に転じてみると、北朝鮮の核実験の脅威や領土問題をはさまた日中関係、日韓関係など、緊張の材料に事欠きません。今ほど国と国、人と人がきちんと結びつかないといけない時代はありません。



同朋高校は親鸞聖人の拓かれた真宗を建学の精神としています。真宗の精神を分りやすい言葉で「バラバラでいっしょ」と言った時もありました。また、同朋学園の学園理念として「共なるいのち」とも言っており、「人はそれぞれの個性を持ち、他者とのかわりの中で、それぞれの生を営んでいる。ばらばらな個性が集まって社会ができ、他者が在るからこそ自分も在るといふ、その関係の中で生きていく」ということでしょうか。いずれにしても人は人としか結びついてこそ、人であるということは忘れてはなりません。他者との関係の中で「言葉によるコミュニケーション」を築き上げる、皆さんにとってもこれはまさに同朋の3年間で培ってきたことであるはずなんです。コミュニケーションを重視した日ごろの授業の中で、同じ目標を持つ部活動の仲間と活動する中で、考え方の違う他人と共同して少しでもいいものを作ろうと努力した文化祭の取り組みの中で、その他さまざまな場で培ってきたことではないでしょうか。

さて、これから君たちは自分の人生の構築に向かって、「ここの同朋を旅立ちます。今まで培った力をもとに、自由に、豊かに、自分の人生を創造していきましょう。」

いまでも、名残は尽きません。しかし、別れの時が来ます。このときは皆さんがまた同朋を訪れた時に皆さん自身が語ってくれるものと信じております。

はなはだ粗略ではありますが、以上をもちまして私の式辞といたします。

LAST HOME ROOM



合格体験記

先日卒業した先輩から、在校生のみなさんに進路に対するメッセージを寄せていただきました。

広島大学 教育学部 健康スポーツ系コース合格

普通科 平岩 亜扇
(豊川市立西部中学校出身)

私は柔道部に所属しています。1年生の頃から将来や進路のことなどそっちのけで、朝から晩まで部活動に全力を注いでいました。そんな私の進路に対して、両親には「好きなことをやればいい。でもあなたがやりたいことをやらないと大人になってから絶対に後悔するよ」とだけ言われていました。

その中で、2年生の冬に生まれて初めて全国大会という舞台を踏み、新しい世界を見たことで、「柔道が好き。柔道が続きたい」という思いを改めて実感し、大学でも柔道が続けることを決めました。

広島大学を勧めてくださったのは、柔道部の顧問の先生でした。何の知識もない私に、「広島大学はどうだ。考えてみる」ときょうかけをくださいました。それから広島大学のことを調べてみると、とても有名な大学でした。そして、柔道部も全国大会に出場するなど強化されています。私が今まで頑張ってきたことが評価され、よりレベルの高い大学への挑戦ができることを嬉しく思いました。このチャンスを逃がしたくないと思い、少し背伸びをしても、受験しようと思った。

広島大学のAO入試受験科目は、「書類面

接実技小論英語の問題を含む」でした。AO入試ということで、人間性や大学への強い思いも問われます。受験勉強はインターハイ後の8月中旬から始めました。そこから毎日、国語科の先生に小論文の添削をお願いし、文の構成や言葉を繰り返して、自分のものとしていきましました。英語は苦手科目でしたので、単語量を重視して過去問題を中心に根気よく続けていきました。そして面接は、事前の準備をしつかりとすることで本番に堂々と意思表示をすることができました。

受験を考えたとき、スポーツや趣味ばかりでは、将来困るという人がいます。しかし私はそうは思いません。なぜなら、本当に行きたくなる大学というのは、趣味や頑張っていることから生まれると思います。もちろん、中途半端な趣味・特技では意味がありませんが、それを追求することができれば大学側からも認められます。AO入試や推薦入試では、このことを成し遂げられる者は、勉強以上に重視され、注目される面があります。進路がなかなか決まらないのであれば、勉強は基本ですが、今やりたいこと、頑張っていることあわせて進路を考えてみてはどうでしょうか。そのスタンスの方がよっぽど楽しく努力することができると思います。自分自身の将来です。自分自身が道を選択し、努力していくことが、良い結果につながると思います。

津島市立 看護専門学校合格

普通科 谷口 奈々
(蟹江町立蟹江北中学校出身)

私が進路を決めたのは、高校2年生の冬でした。もともと看護系に進みたかったので、高校1年生から様々な大学や専門学校のオープン

ンキャンパスに出かけていました。どこへ行くかとても悩みましたが、入試の難易度や通学の便利さ、学校の雰囲気の良いさを考え、最終的に津島市立看護専門学校を受験することにしました。

受験校が決まっただけでは、ホームページに掲載された入試の問題をすべて印刷して何度も解きました。そしてその問題に合った参考書を買って、これも完璧にできるように、何度も解きました。私は現代文対策に、シグマベストの「看護医療系の現代文」、数学対策に、同じくシグマベストの「数学のスーパー基礎」を使って勉強していました。この参考書は津島市立看護専門学校の入試問題とよく似ていること、解説が丁寧でわかりやすいことから薦めました。それ以外にも、出題傾向が似ているまっかげ看護専門学校からも入試問題集をとりよせ、解きました。とにかく筆記問題はたくさん解き、分からないところは先生に聞いたり、自分が納得できるまで勉強していました。

面接の対策で私が頑張ったのは、自分の考え、意見をきちんと相手に伝えられるようにすることです。道徳的な問題から社会的な問題までいろいろと調べ、それに対する自分の意見をノートにまとめ、伝える練習をしました。そして入試1ヶ月前の面接練習で、担任の先生と数人の友達に協力してもらい、集団討論を行いました。出された議題に対して、短い時間で自分の意見をまとめ、相手に伝えられるように努力しました。その時は、相手の意見にきちんと耳を傾けることを意識しました。やはり、看護系では「相手に伝える力」と「相手の話を聞く力」が必要になってくるので、これらの力をつけるために何度も取り組みました。

看護系は競争率が高いので、勉強でも面接練習でもやり過ぎくらいがちょうどいいと思います。とても大変ですが、「看護師になりたい」という強い意志があれば、きつと乗り越えられます。頑張ってください。

東海旅客鉄道(JR東海) 内定

商業科 川田 高弘
(日比津中学校出身)

私は、同期高校に来てくださった先生方や友達に支えられて希望の会社に就職を決めることができました。希望の会社に内定をもらえるまでにはたくさんの苦労がありました。

私は、3年間野球部に所属していました。最初は、部活と勉強を両立ができるか心配でしたが、野球をしているからこそ勉強がはかばかしくもありません。秋を過ぎると、商業科のところもありました。秋を過ぎると、商業科の私にとっては、検定の時期となりました。検定の勉強もとても大事でしたが、野球部の活動にも取り組まなければならず、とても大変な時期でしたが、空いている時間を見つけて勉強をして、検定合格に導くことができました。同じように定期テストも早めからテスト勉強を少しずつ進めた結果、上位の成績を収めることができました。

しかし、2年生のとき進路についてとても悩む時期がありました。私は入学当初から就職を希望していたのですが、先生から「教員にならなうか?」ということを言われたからです。「時期、大学進学と就職のどちらにするかとても悩みました。親に相談したり、いろんな先生方に相談したりする日々が続いたことがありました。悩んだ時期は約半年近くだと思えます。

3年生の1学期に、進路を就職にするか進学にするか最終決定する時期となり、私は就職に決めました。その決め手は、小さい頃からの夢を叶えたかったからです。しかし、その会社の就職試験を受けることは簡単ではありませんでした。就職は、誰でも希望する会社の試験を受けるという訳ではなく、事前に学内選考で学校から推薦をいただく必要があります。その選考に残るために、勉強も頑張り、規則正

2012年度3年生の主な進路先

2013年3月31日時点

大学

同朋大学・名古屋音楽大学・名古屋造形大学
東京芸術大学・広島大学・愛知県立芸術大学・同志社大学
法政大学・専修大学・立教大学・学習院大学・南山大学・愛知大学
中京大学・名城大学・愛知淑徳大学・愛知学院大学・金城学院大学
桐山女学園大学・名古屋外国語大学・愛知工業大学 など

短期大学

南山大学短期大学部・愛知大学短期大学部
愛知医療学院短期大学・名古屋柳城短期大学
至学館大学短期大学部・名古屋女子大学短期大学部 など

専門学校

愛生会看護専門学校・津島市立看護専門学校
藤田保健衛生大学看護専門学校・トヨタ名古屋自動車学校
大原法律公務員専門学校・中日美容専門学校
名古屋情報メディア専門学校・ニチエイ調理専門学校
米田柔整専門学校 など

就職

トヨタ自動車・キムラユニティ・東海旅客鉄道(JR東海)
JR東海ホテルズ・リンナイ・東急ハンズ
さんわコーポレーション・クラシエホームプロダクト
美濃忠・高砂本家・愛生福祉会・医療法人杏園会 など

商業科

部活動と両立しながら検定試験五種目で1級を取得しました

永田 稔将
(桜丘中学校出身)

私は高校生活の3年間を、部活動と検定取得の勉強が両立できるような頑張りました。

私は野球部に入学したくて同朋高校を選び、さらに多くの検定が取得できるという話を聞いて商業科を志望しました。とは言っても、今まで検定試験を受験したことは度もなく、検定試験がどんなものなのかまったく分からなかった。本当に部活動と両立できるのかな?と不安に思っていました。また、検定試験を受ける科目は、中学校まで勉強をしたことがないものばかりです。「0」からのスタートだったので、とても大変という思いと、新しいことを学ぶ新鮮さの半分ずつの思いから取り組みました。

「勉強」というと二人でコツコツ取り組むイメージがありますが、「クラス全員で検定試験に合格する」という目標に向かって、分からない部分を友達同士で教えあったりできるところが検定勉強の楽しいところです。その検定勉強の中でも一番辛かったのが、全商簿記検定の1級です。他の検定と比べて内容も難しく、部活動の合間を縫いながら補習など勉強に取り組みました。そして、その努力が報われ無事合格することができました。この時、今まで勉強をすることが辛いことではないかと思っていた自分の考えも、大きな目標を目指しながら勉強をしていけば徐々に楽しくなっていくという考えに変わりました。

私は検定をたくさん取得することが目標だったので全員が受験する検定だけではなく、自らたくさん検定を受験しました。高校3年間は、これまでの人生の中でも一番というくらいたくさん勉強をしました。検定試験の多くは定期考査の時期と重なっているため、友達より多くの努力が必要ですので、本当に大変でした。そのおかげで卒業までに五種目の検定試験の1級を取得することができ、愛知県知事や全商協会から表彰までしていただきました。

野球部副主将として部活動に取り組みながら、こんなにたくさんの検定取得ができたのも、お互いに友達と勉強を教えあつたこと、先生方の熱心な指導のおかげだと思っています。今後の人生もこの経験を活かしていきたいです。

